

東陵文庫本『春秋経伝集解』について

川 島 絹 江

はじめに

本学図書館所蔵の東陵文庫は、東京成徳短期大学元副学長、鎌田正博士から寄贈された、漢籍を中心とする九七四点、約三千冊の文庫である。目録作成は平成十四年から十五年にかけて、西澤三恵子司書とともに川島が行い、解題執筆と総括を博士ご自身にしていた。、『東陵文庫目録』平成十五年九月、東京成徳短期大学附属図書館刊)

東陵文庫の中に、紺地の大判十五冊の版本『春秋経伝集解』がある。見慣れた活字と異なる印象を受け、静嘉堂文庫、国立国会図書館、国立公文書館に所蔵される古活字本や製版本を閲覧して、東陵文庫本と比較した結果、江戸時代前期の製版本と結論した。本稿は東陵文庫本『春秋経伝集解』の調査報告である。



東陵文庫第一冊表紙

一、書誌

春秋経傳集解 三十卷 十五冊 刊本 東 五一	晋 杜預 著 無刊記	紺地表紙、題淺「春秋左氏傳」 縦二十七・二×横十九・三 糺	匡郭 縦十九・二×十六・四 糺 八行 注、一行につき二行、訓点付	第一冊 春秋左氏傳／春秋経傳集解序／春秋経傳集解 隠公第一	／春秋経傳集解 栢公第二	第二冊 春秋経傳集解 莊公第三	／春秋経傳集解 閔公第四	第三冊 春秋経傳集解 僖上第五	／春秋経傳集解 僖中第六	第四冊 春秋経傳集解 僖下第七	／春秋経傳集解 文上第八	第五冊 春秋経傳集解 文下第九	／春秋経傳集解 宣上第十	第六冊 春秋経傳集解 宣下第十一	／春秋経傳集解 成上第十二	第七冊 春秋経傳集解 成下第十三	／春秋経傳集解 襄元第十四	第八冊 春秋経傳集解 襄二第十五	／春秋経傳集解 襄三第十六	第九冊 春秋経傳集解 襄四第十七	／春秋経傳集解 襄五第十八	第十冊 春秋経傳集解 襄六第十九	／春秋経傳集解 昭元第二十	第十一冊 春秋経傳集解 昭二第二十一	／春秋経傳集解 昭三第二十二	第十二冊 春秋経傳集解 昭四第二十三	／春秋経傳集解 昭五第二十四
------------------------	------------	-------------------------------	----------------------------------	-------------------------------	--------------	-----------------	--------------	-----------------	--------------	-----------------	--------------	-----------------	--------------	------------------	---------------	------------------	---------------	------------------	---------------	------------------	---------------	------------------	---------------	--------------------	----------------	--------------------	----------------

- 第十三冊 春秋経傳集解 昭六第二十五／春秋経傳集解 昭七第二十六
- 第十四冊 春秋経傳集解 定上第二十七／春秋経傳集解 定下第二十八
- 第十五冊 春秋経傳集解 哀上第二十九／春秋経傳集解 哀下第三十

二、京都大学本『春秋経傳集解』

京都大学電子図書館で公開されている谷村文庫、および清家文庫には『春秋経傳集解』が次の10種類存在する。

- 1、谷村文庫／1—65／シ／3 貴 写 8冊 永享三年
- 2、清家文庫／1—65／シ／2 貴 写 11冊 林堯叟注
- 3、清家文庫／1—65／シ／7 貴 刊写合綴・20冊、清原宣賢筆
- 4、谷村文庫／1—65／シ／1 貴 古活字版 2冊
- 5、清家文庫／1—65／シ／6 貴 慶長古活字15冊
- 6、清家文庫／95／貴 古活字版 15冊 画像なし
- 7、谷村文庫／1—65／シ—貴2 刊 15冊
- 8、谷村文庫／1—65／シ5 刊 8冊 寛永八年堀正意点
- 9、清家文庫／貴1—65／シ4 刊 1冊 卷13〜14
- 10、清家文庫／198 刊 14冊 (欠卷13〜14) 画像なし

電子画像で確認したところ、9の印字が東陵文庫の第七冊と一致する。また、7の第一冊も東陵文庫の第一冊と一致するが、第二冊以降は一致しない。しかも7には春秋経傳集解後序が第一冊と第一五冊巻末の二カ所に存在する。いくつかの疑問を抱き、京都大学図書館にて3、7、8、9、10を閲覧、調査した。その結果を報告する。

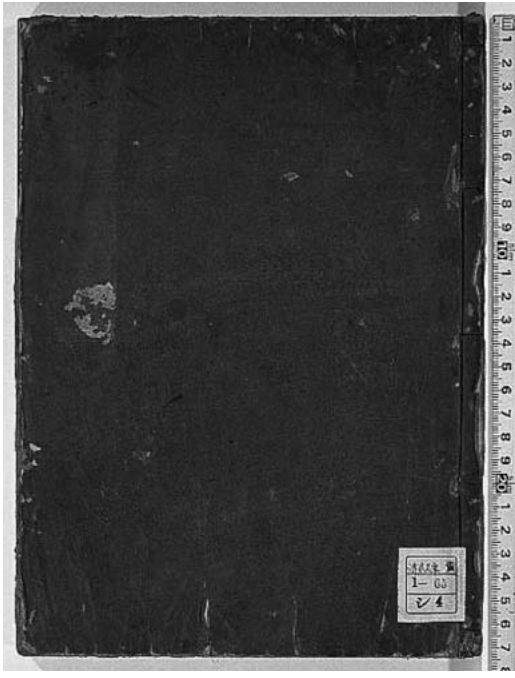
『春秋経傳集解』の版本は、慶長年間を中心に古活字版が作られ、その古活字版から製版本、訓点なしから訓点付へと変化したと考えられている。

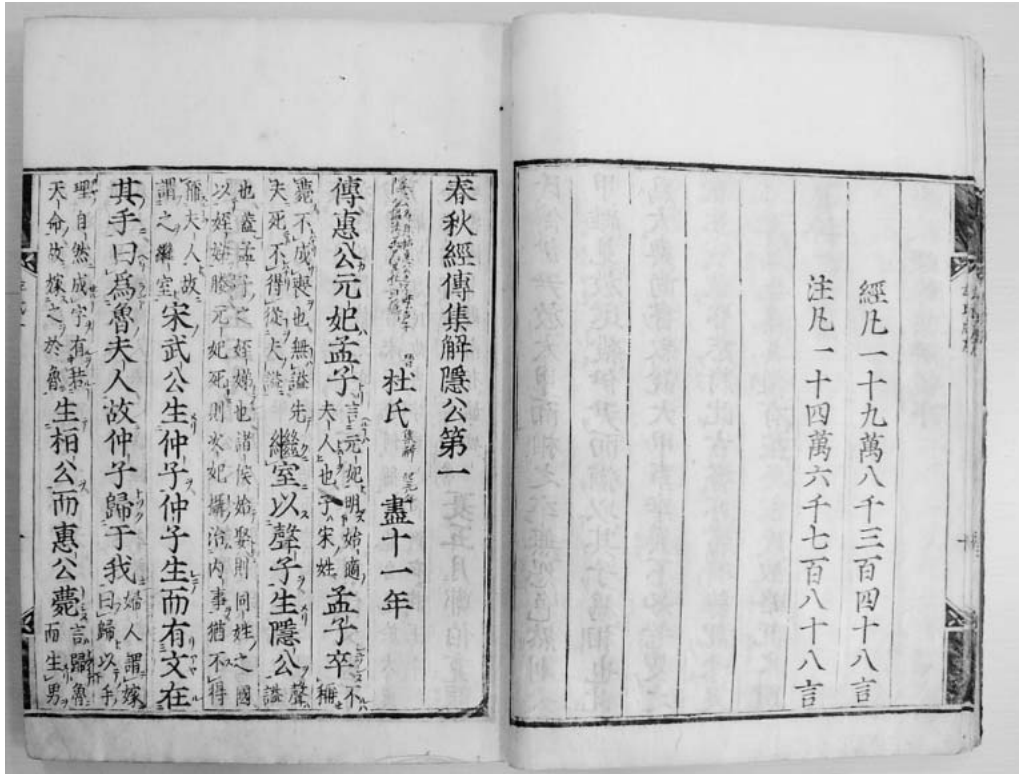
7谷村文庫十五冊本は、第二冊から第十五冊まで訓点の印刷はなく、訓点が直に書き込まれている。第一冊のみ補修した後があり、訓点付きの版に、ある別版の第一冊で補ったために後序が二つになってしまったものと考えられる。この補った第一冊が東陵文庫と一致する。川瀬一馬氏『古活字版之研

(7、谷村文庫(1—65／シ—貴2)表紙)



(9、清家文庫(貴1—65／シ4)表紙)





經凡一十九萬八千三百四十八言
注凡一十四萬六千七百八十八言

春秋經傳集解隱公第一

杜氏 盡十一年

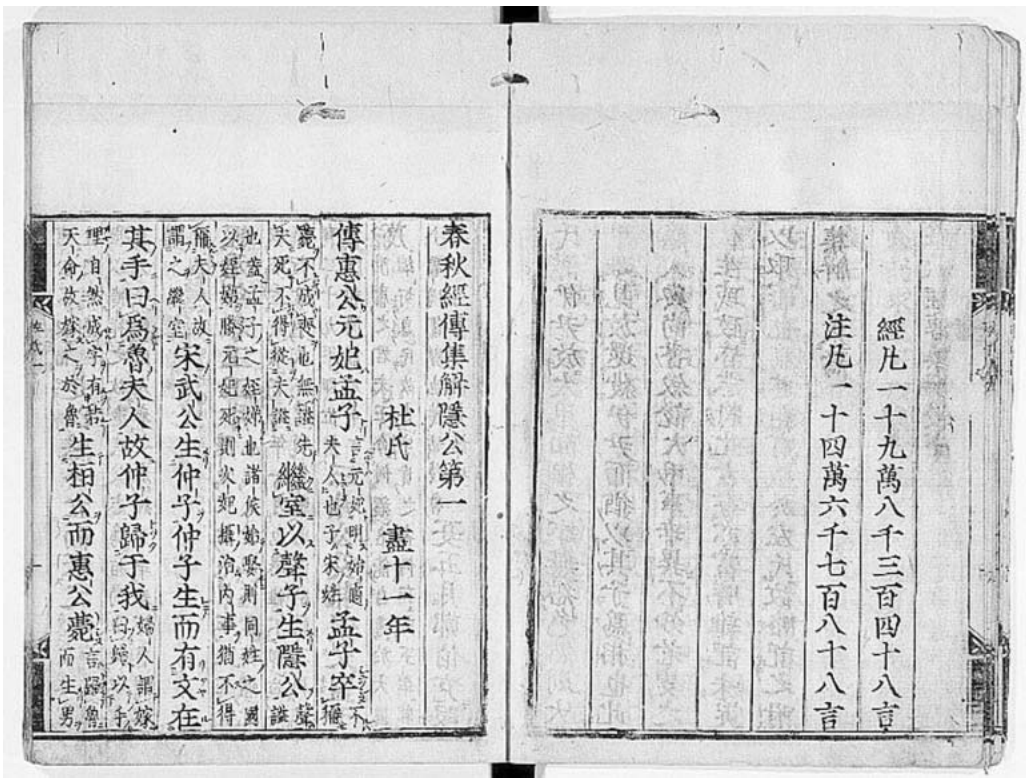
傳惠公元妃孟子言元妃明始適夫入也子宋姓孟子卒不

繼室以聲子聲子不生隱公不

宋武公生仲子仲子不仲子生而有文在

其手曰為魯夫人故仲子歸于我婦人謂嫁曰歸以手

生桓公而惠公薨言歸魯而生男



經凡一十九萬八千三百四十八言
注凡一十四萬六千七百八十八言

春秋經傳集解隱公第一

杜氏 盡十一年

傳惠公元妃孟子言元妃明始適夫入也子宋姓孟子卒不

繼室以聲子聲子不生隱公不

宋武公生仲子仲子不仲子生而有文在

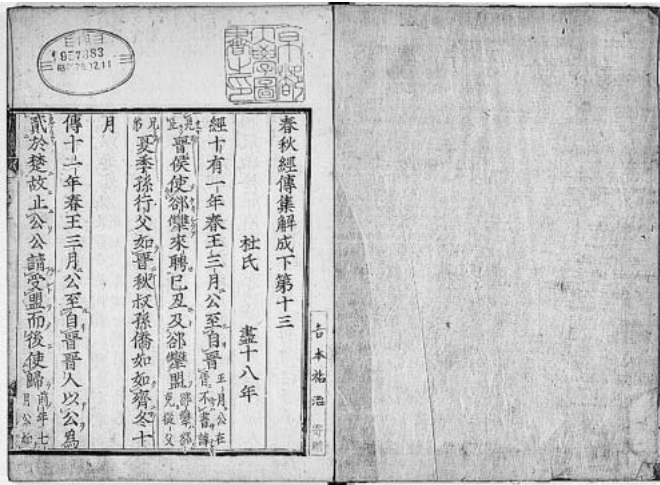
其手曰為魯夫人故仲子歸于我婦人謂嫁曰歸以手

生桓公而惠公薨言歸魯而生男

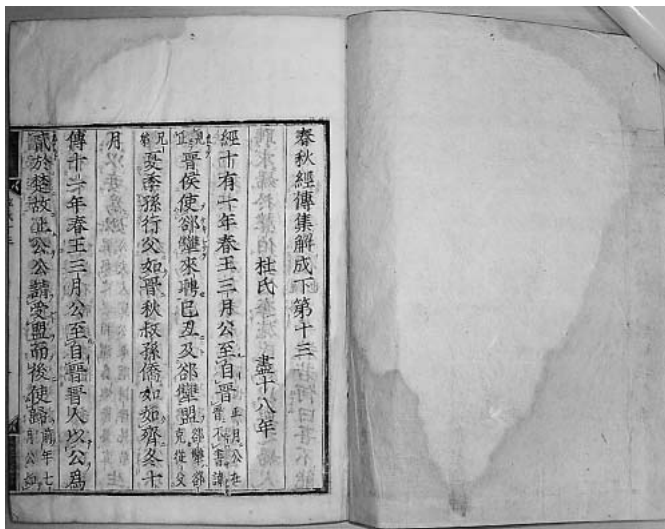
究』(1967、日本古書籍商協会)では、この京都大学谷村文庫『春秋経伝集解』を慶長中刊とし、「巻一・二は製版本補配」としておられる。(816頁)

9 清家文庫一冊は巻十三、十四、すなわち十五冊本の第七冊であるが、京大電子図書館の書誌では「江戸初期」刊とする。「吉本祐治 寄贈」の朱方印がある。この一冊と東陵文庫第七冊(巻十三、十四)は印字が一致する。

10は、貴重書扱いされておらず、丁度七冊目が欠けた十四冊である。これら十四冊の印字が東陵文庫と一致する。第一冊目は、一見薄茶色で、別物にみえるのだが、裏表紙に紺地が残っており、もともと紺色であったものが、擦りむけてしまったものと思われる。二冊目には紺地の表紙に題淺があり、東陵文庫と同じものである。9も10も表紙に同筆の朱書があり、サイズも一致する。元は一揃いであったものであろう。



〔9 清家文庫 (貴1-65/シ4) 第十三初〕



〔東陵文庫 第七冊 第十三初〕



〔東陵文庫 第七冊 表紙〕

8 谷村文庫八冊本は、第一冊（巻一〜四）に寛永八年堀正意（杏庵）の跋文をもつ。一冊四巻、八冊目は二巻と春秋経伝集解後序が入る。これら各巻の印字が東陵文庫と一致する。ただし、東陵文庫に巻頭の跋文はなく、春秋経伝集解後序は第一冊目、春秋左氏傳序の後に入っている。

京大本の8、9、10は東陵文庫と同一の版木であろうと思うのだが、文字の形や野線などの具合を細かく見ていくと、同じ刷りではなく、脱落や欠けなどから、谷村文庫8の八冊本が最も古く、次に9・10の十五冊本、その後が東陵文庫と推定する。残念なことに、東陵文庫本第七冊巻十三の三十七丁が落丁している。

寛永八年（一六三二）を基準にして、9・10の十五冊本はそれよりも後、東陵文庫本はさらに後ということになる。

〔8、谷村文庫（1—65／シ5）表紙〕



〔8、谷村文庫（1—65／シ5）第一冊〕

左氏春秋跋（寛永八年堀正意跋）の末と春秋左氏傳序の初

儒教人知禮讓家著經史爰杉田氏去
与欲刊訓點左傳以行四方屬予求善
本予嘉此書之裨益學者遍考教本正
字畫之紕繆改和訓之異同可有存之
闕者補之以俟後之君子矣庶幾讀之
者辨淄澠分汪渭者幸甚
皆寬永八年歲次辛未冬日南至
尾陽路醫官法眼 杏菴正意跋

春秋左氏傳序
春秋者魯史記之名也記事者以事繫日以
日繫月以月繫時以時繫年所以紀遠近別
同異也故史之所記必表年以首事年有四
時故錯舉以為所記之名也周禮有史官掌
邦國四方之事達四方之志諸侯亦各有國
史大事書之於策小事簡牘而已孟子曰楚
謂之檮杌晉謂之乘而魯謂之春秋其實一

三、後序の位置

『春秋経伝集解』の後序の本来の位置はどこなのだろうか。

東陵文庫『春秋経伝集解』では、第一冊の冒頭に

春秋左氏傳序 一〇六丁

春秋経伝集解後序 七〇十丁

とあって二つの序が存在する。

宮内庁書陵部蔵の「金沢文庫」印のある鎌倉時代の古い写本では、第一冊目に「春秋左氏傳序」があり、「後序」は最後にある。古くは後序は後ろにあったのであろう。

5 清家文庫（1―65／シ／6 貴）慶長古活字本十五冊では、第一冊目に春秋序、第十五冊末に春秋経伝集解後序がある。

一方東洋文庫蔵の岩崎文庫『春秋経伝集解』（三―A―14）十五冊は古活字版及準古活字版とされ、東陵文庫本と同じく第一冊目に二つの序を持つ。古活字版では両方ありうる。

また、二つの後序を持つ7京大谷村文庫一五冊本では、第十五冊の最後に春秋経伝集解後序がくるのが古い形、後序が前にくるのは付訓製版本ということになる。

8 寛永八年堀正意訓点の谷村文庫八冊本では、

縦二八・〇×二〇・七 匣郭一九・五×一六・七 糧

第一冊 左氏春秋跋 寛永八跋

春秋左氏伝序

第八冊末 春秋経伝集解後序

これも、跋文と左伝序が最初に、後序は末尾になっている。

国立公文書館には寛永八年の跋文を持つ十五冊本が存在する。印刻は谷村文庫八冊本、東陵文庫と一致するが、跋の位置が十五冊の最後であり、十五冊の装訂になっている。

① 274―135 十五冊 天海蔵、浅草文庫

縦二八・六×二〇・〇 糧 匣郭縦一九・八×一六・二 糧

第一冊 春秋左氏伝序

第十五冊末 春秋経伝集解後序

左氏春秋跋 寛永八年刊記

同じ印字ながら、無刊記で後序の位置が第一冊にある十五冊本もあり、これは、紙も刷も悪く、後刷であることは確実である。

② 274―134 十五冊 無刊記、天海蔵 表紙茶色 後刷

縦二七・四×一八・八 糧 匣郭縦一九・九×一六・四 糧

第一冊 春秋左氏伝序（一〇六丁）

春秋経伝集解後序（一〇四丁）

寛永八年跋本は、八冊本と一五冊本があり、跋文の位置はわかるが、後序はどちらも最後に置かれる。

東陵文庫本は無刊記であり、後序が第一冊に置かれているので、寛永八年本より後出であろう。しかし、国立公文書館②のような粗悪な紙、雑な刷りという印象を受けない。②とは序の丁数の数え方が異なる、7谷村文庫十五冊本の第一冊の補配に使われた、などの点から考慮して、国立公文書館②ほど後出ではないと考えられる。以上から江戸前期と判断した。

〔付記〕平成十五年から十八年にかけて、静嘉堂文庫、国立国会図書館、国立公文書館、東洋文庫、京都大学附属図書館にて、貴重な写本や、古活字版、製版本を閲覧させていただいた。記して、深謝申し上げる。

なお、京都大学附属図書館蔵本の画像は、京都大学電子図書館から許可を得て、ダウンロードしたものである。東陵文庫本とともに、画像の転載、無断使用を禁ず。